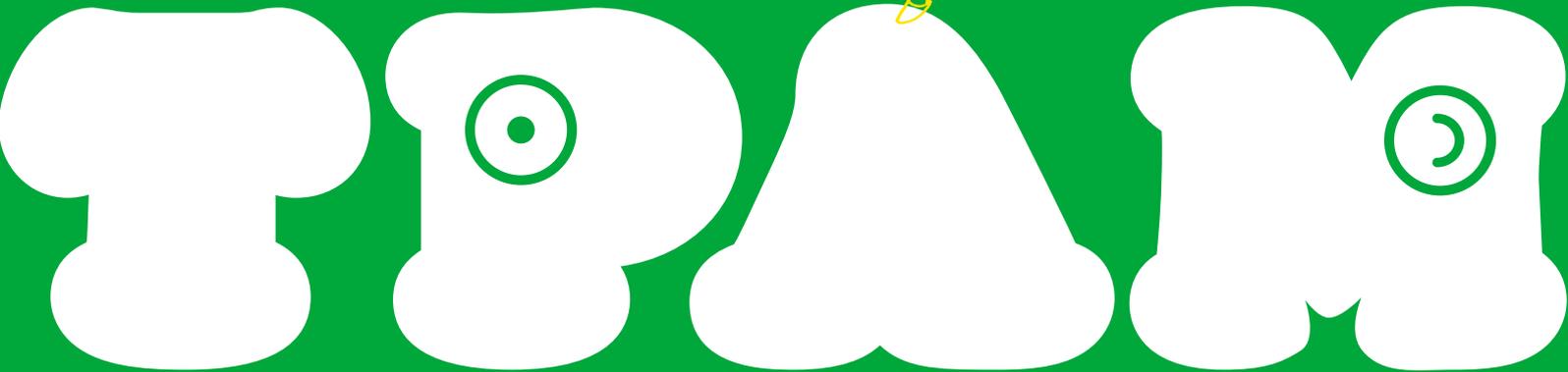


国際舞台芸術ミーティング in 横浜 2014

Performing Arts Meeting in Yokohama 2014

TPAM in Yokohama 2014

開催報告書



舞台芸術をつくる人
みる人のための
国際ミーティング

An international meeting for the
"presenters" and "audiences" of
performing arts



TPAM ディレクション

作品が多様化していく中、舞台芸術作品をしかるべきコンテクストにのせられる制作者の需要は今後ますます増えるであろう。このことを背景に、ユニークな活動を行なっている若手制作者をディレクターに選任し自由なコンセプトと新たな視点でプログラムをつくり、それぞれのディレクションを通して同時代的アイ

デアや課題を共有、ともに舞台芸術の可能性を考察する機会がTPAMディレクションである。各ディレクターには3回継続を前提に依頼していた。回数を重ねることで各ディレクターが普段とは異なる視点を発見して実践。4回を重ねた本プログラムだが、今回は明快にそのことがわかる回となった。



野村政之 ディレクション

私が今回目指したのは、同時代の日本の状況を二つの異なる角度から照らしだすことを意図したプログラムを通じて、TPAMディレクションから海外公演につながる具体的な事例を生み出すことです。

蓮沼執太『作曲：ニューフィル』は、今のところ海外公演の機会を得るには至っていませんが、初めてのホール公演で相応に客席が埋まる程の集客を得、新たなステップにつながる取り組みが出来たのではないかと思います。

範宙遊泳『幼女X』は、ほぼビデオプロジェクターと役者だけで構成するコンパクトな上演形式のなかで、根気よく作品の日英バイリンガル化に取り組んだ結果、早速5月にマレーシアでの公演と滞在制作の実施が決まるという成果を得ました。またこれ以外にも山本卓卓氏に関心を持った海外のディレクターも居り、今後につながる上演となりました。

[野村政之 (こまばアゴラ劇場 制作)]

蓮沼執太『作曲：ニューフィル』

2月11日[火] 17:00

KAAT 神奈川芸術劇場 ホール

範宙遊泳『幼女X』

2月12日[水] 16:00

2月13日[木] 14:30 / 20:00

KAAT 神奈川芸術劇場 中スタジオ



Photo: Hideto Maezawa



Photo: Hideto Maezawa



横堀ふみ ディレクション

新長田や青森という地域で、生活のなかで踊り継承されてきた多様な“踊りやダンス”の状況と、将来の公共性を生み出す可能性としてのコンテンポラリーダンスが出合った作品／プロジェクトが、それぞれの地域から離れた横浜の地、KAAT 神奈川芸術劇場の大スタジオで立ち上がった時、劇場と地域、劇場と表現、生活とダンス、コミュニティと踊りなどのように、それらの間に横たわる様々な“狭間”が見えてきた。それらの狭間を泳ぐ曖昧さや混沌さを削がないこと、そして、頑さとおやうさの両面がゆらゆらと現れる踊りやダンスの瞬間を逃さないことを大切にしたい。コンテンポラリーダンスという舞台芸術が特定の人たちのための芸術領域として循環するのではなく、どのように多様な人々とコミットできるのか、コミットすることで未来の豊かな生活、生き方を想定することが可能か。そのようなことをダンス或いは踊りという言葉にテキストに身体を現形を探したが、確実に伝わった感も、その逆も、手応えとしてあった。

[横堀ふみ (NPO法人 DANCE BOX プログラム・ディレクター)]

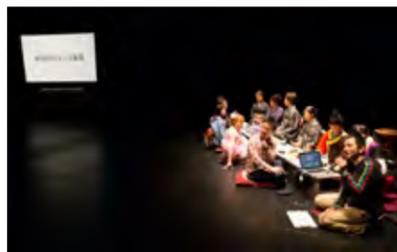


Photo: Hideto Maezawa



Photo: Hideto Maezawa

筒井潤+新長田で踊る人々

『新長田のダンス事情』

ショーネッド・ヒューズ

『Aomori, Aomori』

2月13日[木] 16:30

2月14日[金] 16:30

KAAT 神奈川芸術劇場 大スタジオ



大平勝弘 ディレクション

伊藤キム×山下残

2月11日[火] 19:00

2月12日[水] 16:00/20:00*

2月13日[木] 15:00/19:00

*TPAM参加登録者のみ

STスポット

酒井幸菜×白神ももこ

『Stick & uS!! ~私たちと棒~』

2月15日[土] 17:00/20:00*

2月16日[日] 14:00/18:00

*TPAM参加登録者のみ

STスポット



宮永琢生 ディレクション

濱田英明×瀧澤日以×柴幸男

『「演劇」という名の展示』

2月11日[火] 10:30-19:00*

2月12日[水] - 2月16日[日] 9:30-19:00

ヨコハマ創造都市センター(YCC) 1F

展示

*OK?NO!! によるオープニング・ライブ(12:00/16:00)

今回のディレクションではSTスポットで日常的に行われている「作業」をTPAMというお皿に盛りつけることができました。それはアイデアという種を発芽させ、そこで生まれた表現が、ひとしずくの水滴のように同心円上の波紋を作り、次ぎの展開に繋がっていく。そしてまた、次ぎの一滴を落とすような作業を繰り返す、静かな抵抗を続けていくというこの劇場で常に起こっている現象をプログラムとして切り取りました。アーティストは果敢に自己の表現に向き合い、それに観客は背中を丸めて忍耐強くお立会い下さいました。STスポットでは舞台から全ての観客の顔を見る事ができます。その一人一人と濃密な対話により、ここでしか味わえないコミュニケーションを可能にし、「STスポット」というメディアとなっているのです。今回提示された作品が、観客にとって新たな価値の発見となっていたことを希望します。

[大平勝弘 (STスポット 元館長)]



Photo: Hideto Maezawa



Photo: Hideto Maezawa

今回、私が行なった試みは、個人が普段生きている日常の中に別のレイヤーを見つけ、展示作品の中に潜んでいる日常と地続きのフィクションと《関係》を持つことで独自の「演劇」が立ち上がる、といったものでした。

また本作の拠点としていたヨコハマ創造都市センター(YCC)という場所が、展示作品を介して人々の交流の場となり、その空間・環境の中で必然的に《関係》が生まれていきました。土地があればそこに歴史が蓄積し、人がいればそこに感情が生まれる。そう考えた時、どこにでも我々の《日常》はあり《関係》は生まれるのです。

展示作品自体が、「演劇」の起動装置として機能するまでの物理的な障害も多々ありましたが、今回の展示という形態から生まれた「演劇」は、現行の「演劇」への一つの問い掛けとなったように思います。

[宮永琢生 (制作者・プロデューサー)]



Photo: Kazuomi Furuya



インターナショナル・ショーケース

TPAMは世界各地のネットワーク組織や文化芸術団体との協力により国際ネットワークを広げている。これらの活動を通じて知り合った団体の協力により、海外で活躍する注目アーティストの作品を紹介するのがインターナショナル・ショーケースである。今回も欧州からの参加作品については、高いスキルのプロフェッ

ショナルリズムに支えられて、プラットフォームでの紹介水準を超える作品が紹介された。また、アジアの作品については、国内に横たわる同時代のアジアの舞台芸術作品に対する概念を超えるものがアジア各地では数多く現れている、その一端を感じていただけたのではないだろうか。

話し言葉の百科全書／ ジョリス・ラコスト 『コラル(日本バージョン)』

2月13日[木] 16:00/19:30
2月14日[金] 16:00/19:30
KAAT 神奈川芸術劇場 アトリウム／ホール
ビュッフェ

主催：アンスティチュ・フランセ横浜、国際舞台芸術ミーティング in 横浜 2014 実行委員会
共同製作：(有)アゴラ企画・こまばアゴラ劇場／青年団、ジュヌヴィリエ国立演劇センター
助成：アンスティチュ・フランセパリ本部フランス外務省プログラムThéâtre Export
Échelle 1:1は、フランス文化通信省・イル・ド・フランス地域文化局の支援ならびに、フランス芸術振興会(ONDA)とアンスティチュ・フランセパリ本部の助成を受けています。



Photo: Hideto Maezawa

チョン・ウニョン 『(Off) Stage / Masterclass』

2月15日[土] 17:30
KAAT 神奈川芸術劇場 ホール
主催：PARC・国際舞台芸術交流センター
共催：横浜アーツフェスティバル実行委員会



Photo: Hideto Maezawa



レベッカ・リー (アンスティチュ・フランセ横浜 (旧横浜日仏学院) 館長)
TPAMが横浜に会場を移した2011年以来、アンスティチュ・フランセ日本はそのパートナーとして、フランス・パフォーミングアーツの新しい傾向を代表するアーティストを紹介しています。「ヒューマンスケール」のイベントであるTPAMは、舞台芸術のプロフェッショナルたちの交流の場であり、現代の舞台芸術シーンを真に追いかけるプログラマーたちが集まるプラットフォームです。また、他のプロフェッショナル向けの見本市とは異なり、一般の観客にも広く開かれています。2014年のTPAMでは、最も効果的で芸術的な演劇の分野における共同プロジェクト、こまばアゴラ劇場／青年団と、フランスのジュヌヴィリエ国立演劇センターとの共同事業が実現しました。このプロジェクトにおいて、ジョリス・ラコストが「話し言葉の百科全書」の『コラル』の日本バージョンを構想し、青年団との協力のもと3週間のワークショップを行い、12人の俳優とともに作品を制作しました。話し言葉のフォルムの多様性にオマージュを捧げた、ユーモアとポエジーに溢れたこのショートパフォーマンスは、KAAT 神奈川芸術劇場の二つのスペースで上演され、高い評価を得ました。さらにジョリス・ラコストは、TPAM公式プログラムのひとつであるネットワーキング・プログラムにも参加しました。こうして今年のTPAMへの参加によって、ラコストは日本で作品や活動の紹介ができただけでなく、次の作品の製作にも着手をすることができました。TPAMとアンスティチュ・フランセ日本とが、このような長期にわたるコラボレーションを行なっていることをとても喜ばしく思います。そしてこのコラボレーションが、2015年以降も続いていくことを心から願っています。



チョン・ウニョン
TPAMでの経験は意味深いものでした。私は普段ヴィジュアル・アーツの分野で活動しているので、演劇シーンについてあまり知りません。TPAMは私にパフォーマンスあるいはインターディシプリナリーな芸術分野における大きなチャレンジと可能性を提供してくれました。ショーケース、会議、小規模なディスカッション、演劇の専門家たちとのミーティングなどを通して、同時代のパフォーマンスシーンの状況やそこで要求されていることについて理解を少し深めることができました。現代美術家として、演劇性を作業のプロセスに導入することが助けになると感じています。また、私の作品はジェンダーや伝統に対する挑発を伴う「ヨソン・グック (女性国劇)」に関するものです。韓国の文脈を離れて外国で、とりわけ「宝塚」の国日本で、このような問題系がどのくらい受け入れられるのか大変興味があります。上演はある程度の成功をおさめたと思いますし、意義深いフィードバックを得ることもできました。このことは私の新しい作品、新しい挑戦にポジティブな刺激を与えていくと思います。また、とても賢明で有能なTPAMのスタッフ、完全にプロフェッショナルなKAATのスタッフのみなさんから多くを学びました。感謝します！

シャオ・クウ & チョウ・ツウ・ハン 『We apologize to inform you』

“遺憾ながらお知らせします：
それは誤りです”
2月13日[木] 17:30ごろ
KAAT 神奈川芸術劇場 大スタジオ ロビー
“遺憾ながらお知らせします：
それは忘却されるべきです”
2月14日[金] 11:30-16:00
BankART Studio NYK 2F
“遺憾ながらお知らせします：
それは依然として誤りです”
2月14日[金] 17:30ごろ
KAAT 神奈川芸術劇場 大スタジオ ロビー
“遺憾ながらお知らせします：
それがあなたに唯一できることです”
2月15日[土] 18:30-20:00
KAAT 神奈川芸術劇場 アトリウム
主催：国際舞台芸術ミーティング in 横浜 2014 実行委員会



Photo: Hideto Maezawa

エルヴィ・シレン『KITE』 坂本公成『灰が降る』

2月16日[日] 15:30
KAAT 神奈川芸術劇場 大スタジオ
主催：NPO法人Japan Contemporary Dance Netwok(JCDN)、Zodiak- Center for New Dance、国際舞台芸術ミーティング in 横浜 2014 実行委員会
共同製作パートナー：HIAP - Helsinki International Artists-in-Residence Programme, Full Moon Dance Festival



Photo: Hideto Maezawa



シャオ・クウ
私たちの初めての訪日になったTPAMの経験は、刺激的で忘れ難いものでした。中国、アジア、ヨーロッパの数多くのフェスティバルに参加してきましたが、TPAMは最もプロフェッショナルでオープンなプラットフォームの一つです。私たちは横浜でソーシャル・シアター作品を上演しました。作品は四つのパートに分かれており、それぞれが異なる場所、異なる技術的条件下で上演されました。このためTPAMのスタッフの仕事は大変になりましたが、とてもよくサポートしてくれました。TPAMのオープンな姿勢と私たちへの信頼のおかげで、パフォーマンスは成功しました。コミュニケーションのプラットフォームとして、TPAMは1週間にわたって、ローカルな環境や人々との対話を含む突っ込んだリサーチをサポートしてくれました。この経験が直接私たちのパフォーマンスの組み立てに影響し、その結果、生き生きとしたソーシャル・シアターを実現することができました。「上演して、帰る」というだけのツアーではなく、観客、アーティスト、地元の人々との本当のコミュニケーションの経験でした。私たちはこのプラットフォームから多くを学び、多くの友人ができました。TPAMのすばらしい人々を懐かしく思っています。また参加できることを楽しみにしています！



水野立子
(プログラム・ディレクター・ファウンダー / NPO法人Japan Contemporary Dance Network / Groovism Company ディレクター)
2011年から開始した日本ーフィンランド・ダンス・レジデンス・エクステンジ共同製作プログラム。初年度は、新作の制作と初演。2年目は日/フィンでの公演。そして3年目となるTPAMでの上演は、さらなる活動の場を求めた集大成として、また初の関東での公演となり、多くの国内外の舞台芸術関係者に鑑賞してもらった好機となりました。

日本の坂本公成、フィンランドのエルヴィ・シレン、同時代を生きる二人の振付家が相互国の異なる文化と歴史を持つダンサーと行う作品制作の方法論は、各々がオリジナリティに満ちたアプローチとなりました。2国の振付家が、それぞれの振付方法論を駆使しつつ、それ以上の挑戦とアイデアを果敢に使い、ダンサー・照明家・音楽家のチームメンバーと取り組む制作は、国際間のダンス作品制作の可能性を押し広げるものとなったと感じています。

写真上『KITE』
写真下『灰が降る～ Ash is falling ～』

TPAMショーケース

TPAM 会期中に横浜・東京周辺で行なわれる公演で、出展登録されたものを、TPAM に参加する国内外のプロフェッショナルに紹介する公募プログラム。今年は若手に限らず、既に国内外で活躍している団体の公演もあり、また多様なジャンルから登録がみられた。TPAMショーケースは、TPAM参加者にとって、主催公演以外の公演情報が得られるため、より多く観劇するための一つのツールとなっている。出展登録団体にとっては、プロフェッショナルに

ショーケース出展者のコメント

木野彩子 (振付家、踊子)

TPAMショーケースとして筆奏者八木美知依さん、照明家の三浦あさ子さんにご参加いただき『静』いう作品を出品しました。横浜を拠点にしているものなかなかきちんと公演を打つことができていなかったの、とてもよい機会になりました。残念ながら大雪に見舞われ観客動員はのびませんでした。様々なプログラムに参加することができ、多くの方に出会うことができました。TPAM自体で作品が売れるようになるわけではありませんが、人と人が出会う場としてとらえることとここだけにこだわらない継続性のある活動が大切だと思いました。この経験を次につなげるよう励もうと思います。

大園康司 (振付家・ダンサー)、橋本規靖 (振付家・ダンサー)

かえるPは6回目の主催公演として、本作品『海底のヤギ』を上演しました。カンパニーとして様々な初めての挑戦をした公演だったので、作品の中身においても、制作的な意味でも、沢山の改善点・今後に向けての課題を見出したものになりました。今回は2012年まで活動のベースにしていた横浜に戻っての公演で、2013年に2回実施した東京での公演に比べると、やはり集客が東京ベースに1回なくなってしまとなかなか厳しい実感がありました(もちろんTPAMの他演目との兼ね合い、天候など要因は他にもありますが)。TPAMへの参加と、自分たちの主催公演を成立することを両立する難しさを感じました。一方で、TPAMという場で、今まで交わることのなかった方たち、日本や海外のプロデューサー、ディレクターに観に来ていただき、お話ができたのはこの機会を設ける最大のメリットだったと思います。

ショーケース出展者一覧

アーティスト/カンパニー名	公演タイトル	会場名	公演日時
世田谷パブリックシアタープロデュース 作・演出:倉持裕	現代能楽集VII「花子について」	シアタートラム	2月5日[水]ー2月16日[日]
オペラシアターこんやく座 林光歌劇場	オペラ「吾輩は猫である」 オペラ「ゼロ弾きのゴージュ」	俳優座劇場	2月6日[木]ー2月16日[日]
モモンガ・コンプレックス	ご多分にもれず、ふつう。	STスポット	2月6日[木]ー2月9日[日]
ビルディング	できることなら低空飛行	スタジオ空洞	2月6日[木]ー2月9日[日]
木野彩子	静	BankART Studio NYK 3Cギャラリー	2月7日[金]ー2月8日[土]
minamo x バストリオ	100万回	富士見丘教会	2月7日[金]ー2月8日[土]
マドモアゼル・シネマ	哀しみのフーガ。そして、	神楽坂セッションハウス	2月8日[土]ー2月9日[日]
86B210	Nuages	Art Space 呼応 co-oh	2月8日[土]、2月9日[日]、2月14日[金]、2月15日[土]
マームとジブシー	Rと無重力のうねり	のげシャール(横浜にぎわい座)	2月10日[月]ー2月16日[日]
ももいろぞうさん	THE DOOR	AFR Yokohama	2月11日[火]、2月15日[土]
横浜ダンスコレクションEX2014 受賞者公演: 振子びじん	空気か屁	横浜赤レンガ倉庫1号館3Fホール	2月11日[火]
ロバート・テューズリー、酒井はな、森山開次、津村禮次郎、デフ・アリット、アレッシオ・シルヴェストリン	ARCHITANZ 2014 2月公演	新国立劇場 中劇場	2月11日[火]ー2月12日[水]
鯉スベアレ	かあい日本〜ごちちゃん居る77の風景〜	Gallery LE DECO	2月11日[火]ー2月16日[日]
かえるP	海底のヤギ	さくらWORKS	2月13日[木]ー2月17日[月]
クラウン・ショー副交感神経	クラウン・ショー副交感神経2	あかいくつ劇場	2月13日[木]ー2月14日[金]
きたまり&NPO法人Offsite Dance Project	多田淳之介 RE/PLAY(DANCE Edit.)	急な坂スタジオ	2月14日[金]ー2月16日[日]
革命アイドル暴走ちゃん	騒音と闇	相鉄本多劇場	2月14日[金]ー2月16日[日]
ARICA	しあわせな日々	横浜赤レンガ倉庫1号館3Fホール	2月14日[金]ー2月16日[日]
日本・韓国ダンス交流プロジェクト	"Dance Connection" Seize the Day / Face to Face 2014 version	象の鼻テラス	2月14日[金]ー2月15日[土]
AAPA(アアパ / Away At Performing Art)	ありしひ	BankART Studio NYK NYKホール	2月14日[金]ー2月16日[日]
カタルシツ	糞の河原	KAAT 神奈川芸術劇場 アトリウム	2月14日[金]ー2月16日[日]
MOKK	ヴァニッシング・リム	ハンマーヘッドスタジオ 新・港区	2月14日[金]ー2月16日[日]
Co.山田うん	ダンスxアプリコx山田うん!「春告歌」	大田区民ホール・アプリコ 大ホール	2月15日[土]
ビーピング・トム	A Louer / フォー・レント	世田谷パブリックシアター	2月17日[月]ー2月19日[水]*2月16日ゲネプロ公開

ナルに団体の存在、公演情報を知らせ、観劇を通じて紹介することができ、メイン会場でのネットワーク作りと上演を通じた活動紹介の双方を最大限に生かすことができる。公演が終了した団体を中心に、TPAMエクスチェンジに参加し他の参加者と交流する様子もみられたが、多くの団体はTPAM主催プログラムに参加することは難しい。登録団体へのサポートの充実は今後の課題である。

※ TPAM終了後のヒアリングにご参加いただいた方のコメントを掲載しております。

須知聡子 (ARICA プロデューサー)

ARICAがTPAMに参加するにあたり、国内外のディレクターへのアプローチも視野に入れて、会期中のカンパニー主催公演を開催しましたが、荒天候によるアクシデントの対応に追われ、制作としては、消化不良な部分もありました。開催時期的には、天候リスクの認識が足りなかったのが反省点。TPAMを最大限利用するには、カンパニー内に、TPAM対応と公演担当の二人の制作がいればと、感じました。スピード・ネットワークを重点的に利用させてもらいました。10分は少々慌ただしかったです。マンツーマンでディレクターの方々のお時間を頂けたのは収穫でした。主催公演があったため、他のプログラムに参加できなかったのは残念でした。

上原聡子 (Co.山田うん 制作)

TPAMには2012年から毎年参加しています。実際に海外招聘公演につながった例もあり、今年も海外を意識しなかった訳ではないですが、参加の一番の目的は国内ホール関係者に向けての広報でした。本公演が、ダンス公演に初めて取り組む公共劇場の主催事業だったこともあり、全国の業界関係者やダンス・演劇観客層に向けてTPAMという別ルートで告知いただくことで、より多くの方に情報が届いたと思います。本番はあいにく大雪の翌日でしたが、海外のお客様も無事来場。ふだん日本語以外を母国語とする来客に接する機会が少ない開催劇場なこともあり、アクセス情報のバイリンガル化などを考える小さな契機にもなったようです。

基調講演

アジアの舞台芸術作品が国際的に広く注目される一方、「公共圏」という概念が「アジア」では広く共有されておらず、公的にアートをささえる倫理的な共通認識とルールの構築が求められていた。東アジア、東南アジア、日本と、各地の同時代の舞台芸術界を国際的に牽引する三方に、それぞれの活動を通して、「パブリック」

と「プライベート」の境界が曖昧になってきている今、これらアート・プロジェクトの理念、企画、構造はどのような「公共圏」を形成しようとしているのかについて、彼らの活動とヴィジョンを紹介していただきつつ、世界共通のテーマとしての、私たちにとつての「公共圏」について議論した。



私たちにとつての「公共圏 (パブリック・スフィア)」を問う—アジアの舞台芸術の最前線から

2月11日[火] 13:00

ヨコハマ創造都市センター(YCC) 3F

【スピーカー】

キム・ソンヒ(アジア・アーツ・シアター 芸術監督)

オン・ケンセン(シンガポール国際芸術祭 ディレクター / TheatreWorks 芸術監督)

橋本裕介(KYOTO EXPERIMENT / ロームシアター京都 プログラム・ディレクター)

キム・ソンヒ(アジア・アーツ・シアター 芸術監督)

現在、アジア・カルチャー・コンプレックス内アジア・アーツ・シアター 芸術監督。ジャンル横断的国際芸術祭「フェスティバル・ボム」設立者 / ディレクター (2008-2013)、ナム・ジュン・パイク・アート・センター [Inaugural Festival] での「Station 2」芸術監督 (2008)、MODAFE (国際現代舞踊祭、ソウル、2001-2005) オーガナイザー / ディレクターなどを歴任。

オン・ケンセン(シンガポール国際芸術祭 ディレクター / TheatreWorks 芸術監督)

アジアの多様な芸術様式の発展と、現代芸術におけるそれら様式のトランスグローバル化に多大な貢献をしている革新的な演出家。作品は世界中の都市で上演され、現在、Spoleto Festivalで初演されるマイケル・ナイマンによるオペラ『Facing Goya』の演出に取り組んでいる。1994年に「Flying Circus Project」を構想。アジアのアーティストや知識人、各国の様々なジャンルのアーティストによる混成的ラボとして、最近では2013年にミャンマーで実施されている。また、小規模の助成金を通してアジアでのコラボレーション事業を支援する Arts Network Asia の設立者でもある。DasArts、UCLA、アムステルダム大学、シンガポール国立大学など多くの大学で教鞭を取る。2010年にはアジアのコンテンポラリー・パフォーマンスにおける業績に対して福岡アジア文化賞芸術・文化賞が贈られた。2013年5月、新生シンガポール国際芸術祭 (Singapore International Festival of Arts、旧 Singapore Arts Festival) のディレクターに任命。

橋本裕介(KYOTO EXPERIMENT / ロームシアター京都 プログラム・ディレクター)

京都大学在学中の1997年より演劇活動を開始。2003年、橋本制作事務所設立。現代演劇、コンテンポラリー・ダンスのカンパニーマネジメントや、京都芸術センター事業「演劇計画」などの企画を手がける。2010年よりKYOTO EXPERIMENTを設立、プログラム・ディレクターを務める。2013年より舞台芸術制作者オープンネットワーク (ON-PAM) 理事長。2014年1月よりロームシアター京都開設準備室担当課長。



Photo: Hideto Maezawa

TPAMエクステンジ

前回実施したグループ・ミーティングとスピード・ネットワーキングを拡張し、2日間のプログラムとして実施。従来のブースやスタンド形式の出展形態をやめ、各参加者がミーティングのテーマや議題を予め提案することにより、偶発的な出会いよりも、トピックに関心のある専門家が集まり、それぞれの活動にとって必要な情報や経験、アイデアがミーティングの場を通じて積極的に交換できる機会となった。また、ブース形式では実現しなかった、各参加者がどのような問題意識や展望をもって参加するのか、テーマ設定により、広く共有することで、よりオープンな活動形態や制作者の共生を目指す時代に即したプログラム形態に変容したといえる。



Photo: Hideto Maezawa

2月14日 [金] 11:30 — 16:00

2月15日 [土] 11:30 — 16:00

BankART Studio NYK 2F

スピード・ネットワーキング ホスト一覧(名字アルファベット順)

※ TPAM2014開催時点

名前	肩書	国・地域
マーク・ポール	LIFT 芸術監督／最高責任者	英国
マルセラ・ディエス・マルチネス	セルバンティーノ国際芸術祭 プログラム・ディレクター	メキシコ
藤田直義	高知県立美術館 館長	高知
ドミニク・ガルデ・トレス	フィリピン文化センター 舞台芸術部門 プロダクション・マネージャー	フィリピン
ジョセフ・ゴンザレス	マレーシア国立芸術遺産大学[ASWARA] ダンス学部長	マレーシア
アロン・グリーンワルド	Duke Performances エグゼクティブ・ディレクター	米国
橋本裕介	KYOTO EXPERIMENT／ロームシアター京都 プログラム・ディレクター	京都
ベン・ジョンソン	Center for the Art of Performance at UCLA プログラム・マネージャー	米国
エミリオ・カリウ	Fundacao Cidade das Artes 会長	ブラジル
唐津絵理	愛知芸術文化センター 主任学芸員／あいちトリエンナーレ2013 プロデューサー	愛知
藤山陽太	ロームシアター京都 支配人／エグゼクティブディレクター	京都
小島寛大	フェスティバル/トーキョー 事務局次長	東京
倉持陽介	スパイラル/株式会社ワコールアートセンター アートプロデューサー 象の鼻テラス担当	神奈川
アレクサンドラ・マヌイレニコ	ロシア演劇人同盟 国際部 プロジェクト・コーディネーター	ロシア
宮久保真紀	スパイラル/株式会社ワコールアートセンター パフォーミング・アーツ担当 プロデューサー	東京
森忠治	せんだい演劇工房10-BOX プログラムオフィサー	宮城
中根杏奈	[公財] 横浜市芸術文化振興財団/横浜赤レンガ倉庫1号館 横浜ダンスコレクションEX 担当	神奈川
小倉由佳子	アイホール/伊丹市立演劇ホール ディレクター	兵庫
小野晋司	青山劇場・青山円形劇場 プロデューサー	東京
ヲザキ浩実	あうるすぽっと[豊島区立舞台芸術交流センター] 制作統括/チーフ・プロデューサー	東京
ルネ・ヴァン・デン・プライム	アムステルダム市立劇場 芸術監督	オランダ
デヴィッド・レイヴェル	Alverno Presents ディレクター	米国
崎山敦彦	KAAT 神奈川芸術劇場 チーフプロデューサー	神奈川
齋藤啓	鳥の劇場 制作担当	鳥取
下山久	国際児童・青少年演劇フェスティバルおきなわ 総合プロデューサー/芸術監督、エーシーオー沖縄 [芸術文化協同機構] 代表	沖縄
杉崎栄介	公益財団法人横浜市芸術文化振興財団 ヨコハマ創造都市センター 担当リーダー	神奈川
ヴィルヴェ・スティネン	Tanz im August ディレクター	フィンランド/ドイツ
竹下暁子	山口情報芸術センター[YCAM] パフォーミングアーツ企画制作	山口
高萩宏	東京芸術劇場 副館長	東京
塚田美紀	世田谷美術館 学芸部企画課主任学芸員	東京
サラ・ウルファ	ジャカルタ芸術劇場 プログラム・マネージャー	インドネシア
矢作勝義	穂の国とよはし芸術劇場 PLAT 事業制作チーフ	愛知
横堀ふみ	NPO 法人 DANCE BOX プログラム・ディレクター	兵庫

スピード・ネットワーキング

※ TPAM 終了後のアンケートをもとにコメントを掲載させていただきました。



齋藤啓 (鳥の劇場 制作担当)

「スピード・ネットワーキング」に参加しての第一の感想は、本当にスピーディーだったということ。限られた時間の中で、より重要なことをどうやって聞き出すかということに神経を使った。では、なぜスピードが大事なのかということを考えてみると、それだけ多くの人に会えるからということなのだろう。それがより多くの「ビジネスチャンス」につながるかどうかは、今のところ分からない。とはいえ、短時間だから十分に話ができなかった、ということでもないだろう。一つははっきりしているのは、会話にならないとうまくいかないということだ。テーブルを訪れるゲストの方にも話を聞く姿勢があると、ちゃんと会話が成立していたように思う。



塚田美紀 (世田谷美術館 学芸部企画課主任学芸員)

パフォーマンスのレギュラー企画を持つ美術館はかなり珍しいこともあってか、スピード・ネットワーキングは海外の方も含め、予想以上にさまざまな方とお目にかかる機会となった。いらした方は、当館と何かしたいと具体的に考えているというよりも、「こういうことに、そもそも美術館は関心を持ちそうか」という探りを入れるべく私に会いに来た場合も多かったようである。つまり私のブースは、美術館という未知の業界にアクセスするための相談窓口だったといえよいだらうか。興味深い時間ではあったが、持ち時間15分の窓口対応というのはなかなか疲弊するものであった、というのも正直なところである。



ドミニク・ガルデ・トレス (フィリピン文化センター)

アーティストと会場が集まって相互交流の可能性を話し合うための時間が提供されているのが素晴らしい。会場の運営者、プロデューサー、アーティスト、アーティストのマネージャーなどが混じり合っているのがよかった。与えられた時間の枠内でやりとりされる情報量と可能性の豊かさによい意味で驚かされた。



グループ・ミーティング

※ TPAM 終了後のアンケートをもとにコメントを掲載させていただきました。



西山葉子 (城崎国際アートセンター プログラム・ディレクター)

オープン直前の公共文化施設として開館初年度のプログラム公募に当たり参加しました。TPAMを機に大々的に周知する予定でしたので、グループ・ミーティングご参加者や、コンタクトリスト掲載の皆様へのメール配信を通して、国内外の多くの方々にお知らせすることができ、大成功でした。今年はビジュアル的なプレゼンテーションを重視し、プロジェクター仕様の部屋を申込みましたが、終了後に多数ご質問を受けたので、今後はよりフレキシブルに対話のできるテーブルでのミーティングを活用することも考えていきたいです。大雪に見舞われましたが、プログラムをほとんど中止することなく遂行したTPAM事務局のインフラの強さにも拍手を送りたいです。



山本清文 (新居浜市総合文化施設 アドバイザー、シアターねご 運営スタッフ、劇団ステッキ 主宰、即興演劇シーズンズ 主宰)

テーブルには20人以上の方が集まってくれた。辺境の地・愛媛の演劇事情に質問が絶えず、あっという間に制限時間を迎えた。同じような地方都市でも問題は千差万別だと感じた。当日は大雪のせいでタクシー移動したのだが、偶然テーブルで出会ったダンサーと再会し劇場まで相乗りした。意気投合し、なんと後日、愛媛でダンスのトークイベントが実現したのだ。日本/世界で舞台芸術に積極的に携わる人が攪拌されたことで生まれるTPAMの効果は数値だけでは計れない。



佐野晶子 (アーツカウンシル東京 [公益財団法人東京都歴史文化財団] プログラムオフィサー)

アーツカウンシル東京の二つの助成プログラム(東京芸術文化創造発信助成/単年助成プログラム及び長期助成プログラム)についてご紹介させていただきました。都内に事務所を有することが申請者の要件のため、海外プレゼンターの方々には「東京のアーティストをぜひ招聘いただき、アーティスト側から申請をしてもらいたい。その際には招聘状など書類提供のご協力を」とお願いしました。終了後、ハンガリーやアメリカからの参加者とお話し、当方が助成する海外公演のパートナーでいらしたことが分かり感激。ルーマニアの方も、日本との共同プロジェクトについて熱心に説明していただきました。TPAMが国際プラットフォームであることを肌で感じる、有意義な機会となりました。



ピヤワット・タムクラーングーン

(ソッサイ・パントゥムゴモン劇場 マネージャー、チェラロンコン大学演劇学科 講師、演劇プロデューサー)

グループ・ミーティングのセッションがとても良かった。時間枠の長さもちょうどよいし、さまざまな活動に関する、さまざまな団体によるミーティングに参加する機会が提供されていた。とても貴重な時間!

TPAMの提携事業として、舞台芸術AIRミーティング@TPAM2014を実施した。TPAMの主催団体のひとつであるPARC-国際舞台芸術交流センター主催によるプログラム。アジアを中心としたアーティスト・イン・レジデンスの現場から、それぞれが抱えている現状や課題についてのトークセッションが行われた。

[セッション1]

アジアの中の舞台芸術のAIR状況について

2月10日 [月] 18:00-21:00

[セッション2]

ラウンドテーブル：国際共同制作について
日韓英国際共同制作『ONE DAY, MAYBE いつか、きっと』

2月14日 [金] 9:30-11:00

[セッション3]

アジアのアーティストが考えるAIR

2月16日 [日] 10:00-12:00

[セッション4 (非公開)]

プロデューサーズ・イン・レジデンス

2月16日 [日] 13:00-14:30

ヨコハマ創造都市センター (YCC) 3F

主催：PARC - 国際舞台芸術交流センター
助成：平成25年度文化庁文化芸術の海外発信拠点形成事業

PARC-国際舞台芸術交流センター

舞台芸術のAIR (Artist in Residence) について、アジアを中心にAIRに携わる制作者や支援団体のディレクターを招き、経験、実践に基づく成果や課題、今後の展望について議論した。レジデンス自体の意義を考えることは、アーティストだけではなく、各専門家のモビリティと切り離せない問題であり、制作者やドラマトゥルク、批評家、ジャーナリスト等が、拠点とする地域を離れ活動する事例が増えてきた現在、機会を獲得する方法や、その経験を次世代につなげ展開するための情報共有やアーカイブについてまで議論が及んだ。一方、自治体主導によるAIRプログラムは外の地域から芸術家を誘致し、市民へ還元できるプログラムとして、一部の国や地域では構造のみ乱立する傾向があることが指摘され、本来の目的である、創造的な思考のため一定の時間と場所の提供、既存の価値観や考え方を見直し、新しい地域や人の文脈に触れ、創造力を刺激する機会を提供することの重要性について再確認された。



Photo: Hideto Maezawa

本催事の提携事業として、舞台芸術制作者オープンネットワーク (ON-PAM) の報告会、総会、シンポジウムを実施した。前年TPAMの場で発足・設立したネットワークの1年の活動実績を振り返った。

報告会

2月12日 [水] 10:00-12:00

総会

2月12日 [水] 13:00-15:00

シンポジウム vol.1 :

アジアのネットワークに向けて 公開ディスカッション

2月13日 [木] 10:00-12:00

シンポジウム vol.2 :

開かれた芸術のあり方をめぐって

——現在の《公共》にとって必要なオープンさとは？

2月13日 [木] 13:00-15:00

ヨコハマ創造都市センター (YCC) 3F

主催：舞台芸術制作者オープンネットワーク
共催：国際舞台芸術ミーティング in 横浜 2014 実行委員会
助成：公益財団法人セゾン文化財団



Photo: Hideto Maezawa

舞台芸術制作者オープンネットワーク

設立から1年を経て実施したシンポジウムでは、TPAMとの提携により、異なる文脈でありながら共通の問題意識を持つ人々と新しい視点やアイデアを交換でき、ネットワークの目的や活動内容を再確認する機会となった。「アジアのネットワークに向けて」では、アジア共通の問題提起としてプロフェッショナルリズムの再考と内側から定義するアジアについて議論され、これまで多くのネットワークに携わってきた専門分野の参加者から課題と同時に期待も寄せられ、今後アジアに展開する第一歩となった。「開かれた芸術のあり方をめぐって」では、《公共性》という言葉の定義を巡り意見交換が多岐に渡ったが、責任を伴う決断をすることが外部に開かれ、透明性を保つための基本であること。また明確なミッションと、従来とは異なる評価方法を見つけ、舞台芸術の社会における位置づけを見直し、直接的、間接的なステークホルダーとの関係性を構築する必要性が確認された。

ドイツ文化センター主催の本企画。昨年はTPAMディレクション Plusで参加し、今年はいよいよアーティストとコミュニケーションをとれる形の参加となった。同じ会場で行われたTPAMエクステンジとも有機的につながった。

2月14日(金) 11:30-16:00

2月15日(土) 11:30-16:00

BankART Studio NYK 2F

【参加アーティスト】

クリストフ・ヴィンクラー(ダンス)

トーマス・レーメン(ダンス)

マイ・ツァリー(ダンス)

田中奈緒子(インスタレーション/パフォーマンス)

主催：ドイツ文化センター



Photo: Hideto Maezawa



小高慶子

(ドイツ文化センター文化企画コーディネーター)

アーティストとプレゼンターの出会いの場「BÜHNE FREI!」に、ドイツからダンスのクリストフ・ヴィンクラー、トーマス・レーメン、マイ・ツァリー、

パフォーマンス/インスタレーションの田中奈緒子が参加しました。その印象的なインスタレーションは、特にビジターの関心を集めたようです。その他、ドイツのアーティスト・イン・レジデンスのうち、海外からの参加も可能なパフォーミングアーツ系の4件のレジデンスについて、パネルとパンフレットで紹介しました(Akademie Schloss Solitude, PACT Zollverein, Schloss Bröllin, Tanzplan Hamburg)。またPACT Zollvereinのディレクター、シュテファン・ヒルターハウス氏とアーティストが、レジデンスでの活動について公開トークの形で報告しました。

成果レポート

今回のTPAMがきっかけとなり、範宙遊泳はマレーシア公演が決まった。また、プリコグのアーティストがグループ・ミーティングでの発表をきっかけにIETMというネットワーキングの場に呼ばれた。それぞれの当事者から、活動について報告してもらった。



Photo: 斉藤利平



範宙遊泳『幼女X』マレーシア公演 山本卓卓(範宙遊泳 主宰)

初日終演後のロビーで山下陽子さんに呼び止められ、マレーシアのプロデューサーが会いたがっているのだから会って欲しくないか、とのこと。劇場下のカフェで落ち合うとすらとした女性が出て、彼女がマレーシアのKakiseniという芸術団体の代表ユエンだった。ユエンは開口一番「とてもよかった。あなたはコラボレーションに興味はありますか?」と聞いてきた。僕は「今(若造のうちに)自分の出来ること出来ないことを把握してもつまらないから何でもやりたいと思っている」。ユエン「そうですか。今年の5月にマレーシアに来ませんか?」。僅か3ヶ月後の初の海外公演・滞在制作がここで決まった。5月1日から26日までマレーシアに滞在し、TPAMで上演した『幼女X』をそのまま上演した後、テキストをマレー語に変え現地の俳優・演出家と共同作品『GardisX』に仕上げ上演した。共同制作といえど3週間強という期間は短い。ここで得た交流も課題も、次に繋げていかなければ意味がない。繋げよう、と思っている。



Photo: Ryohai Tomita



IETM 参加レポート 奥野将徳(プリコグ 制作)

例年、プリコグとしてTPAMエクスチェンジでブースを出したり、TPAMショーケースに参加したりなど、TPAMを最大限に活用し、海外とのネットワークを作ってきましたが、今年はTPAMエクスチェンジのグループ・ミーティングにてプリコグのアーティストを紹介する形で参加させて頂きました。各アーティストのこれまでの活動や、今考えている次の企画を説明させて頂く中で、様々な国のディレクターやプロデューサーに興味を持って頂き、新しいコンタクト、繋がりが出来たことが一番大きな収穫でした。また、このグループ・ミーティングでのプレゼンをきっかけに「IETM Asian Satellite Meeting Melbourne」に参加させて頂き、アジア・オセアニアを中心としたさらに多くの舞台業界の繋がりを得ることが出来ました。個人的にIETMに参加出来たことは、非常に有意義で、オーストラリアやアジアの舞台業界の状況を見聞きし、肌で感じられたことで、視野が大きく広がったと感じています。このことが今後、自分の仕事の中でも、企画やマネジメントするときの考え方・パースペクティブの持ち方に大きな影響を与えてくれると感じています。

主な掲載媒体

新聞	掲載日/号	掲載媒体名	タイトル/内容など
	2014年1月30日	朝日新聞	国内外の意欲作、横浜に 山下残インタビュー
	2014年2月6日	The Japan Times	Yokohama's annual feast of TPAM 丸岡ひろみインタビュー
雑誌	掲載日/号	掲載媒体名	タイトル/内容など
	2013年12月20日	DANCEART	公演情報 開催告知
	2014年1月17日	美術手帖	OTHER TOPICS 開催告知
	2014年2月1日	シアターガイド	開催告知
	2014年3月15日	サウンド・アンド・コレーズ	コンサート見聞録 蓮沼執太【作曲:ニューフィル】
	5月号	art plus TAIWAN	FEATURE 日本横浜 表演藝術交流会議観察
ラジオ	掲載日/号	掲載媒体名	タイトル/内容など
	2014年2月1日	FMサルース Aoba CONNECTION+	ゲスト:渡辺明美(YCC)、山崎奈玲子
	2014年2月3日	NHK FM サウンドクルーズ	ゲスト:蓮沼執太、野村政之、山崎奈玲子
	2014年2月8日	FM Yokohama YOKOHAMA DELIGHT	ゲスト:蓮沼執太、山崎奈玲子
ウェブ	掲載日/号	掲載媒体名	タイトル/内容など
	2014年4月8日	Next News-Headline	チェック 開催告知
	2014年8月17日	Next News-Headline	チェック 【会期中に横浜・東京近郊で開催される公演が対象】「TPAM in YOKOHAMA 2014」ショーケース出展登録開始
	2013年12月17日	Yahoo! ニュース	蓮沼執太
	2014年1月9日	SPACE SHOWER MUSIC	Features 蓮沼執太インタビュー
	2014年1月20日	アンスティチュ・フランセウェブ	インターナショナル・ショーケース「コラルル」
	2014年1月20日	アンスティチュ・フランセウェブ	丸岡ひろみコメント
	2014年1月20日	在日フランス大使館	丸岡ひろみコメント
	2014年1月22日	ツイナビ	開催告知
	2014年1月23日	CINRA	ニュース 開催告知
	2014年1月23日	CINRA	インタビュー:TPAMディレクション ディレクター4人
	2014年1月30日	JAPAN PORTAL	開催告知
	2014年1月31日	キッズイベント	開催告知
	2014年1月31日	とくら	開催告知
	2014年2月2日	朝日新聞デジタル	国内外の意欲作、横浜に 国際舞台芸術ミーティング
	2014年2月3日	Performing Arts Network Japan	インタビュー:丸岡ひろみ
	2014年2月3日	Yahoo! ニュース	開催告知
	2014年2月4日	web1週間	プレゼント&インフォメーション
	2014年2月4日	ヨコハマ経済新聞	横浜で国際舞台芸術ミーティング「TPAM」-国内外の舞台芸術関係者が結集
	2014年2月5日	まるまるとながわ	「TPAM(ティーパーム)って?」NHK FM アーカイブ
	2014年2月5日	BLOOUN ARTINFO	開催告知
	2014年2月6日	The Japan Times	Yokohama's annual feast of TPAM 丸岡ひろみインタビュー
	2014年2月6日	創造都市横浜	舞台芸術が集まるTPAMをめぐろう! 特集記事
	2014年2月6日	マイナビニュース	TPAM イベント紹介・開催告知
	2014年2月6日	Next News-Headline	スキルアップ 【ミーティングテーマが随時更新中】「TPAM in Yokohama 2014」ネットワーキングプログラムの詳細が明らかに
	2014年2月7日	BLOUIN ARTINFO	インタビュー:チョン・ウニョン
	2014年2月8日	FM Yokohama YOKOHAMA MORNING STEPS	開催告知
	2014年2月11日	しのぶの演劇レビュー	宮永琢生ディレクション「『演劇』という名の展示」
	2014年2月11日	しのぶの演劇レビュー	野村政之ディレクション「作曲:ニューフィル」
	2014年2月11日	BricolaQ	野村政之ディレクション「幼女X」
	2014年2月11日	マダカル	空間を作曲しスコア化すること インタビュー:蓮沼執太×毛利悠子
	2014年2月15日	Bankart192 ニュース	開催告知
	2014年2月21日	佐々木敦のTumblr	蓮沼執太論
	2014年2月25日	チョウ・ツツハン youtube	インターナショナル・ショーケース「We apologize to inform you.」
	2014年3月12日	パワナビ	横浜を舞台に繋げる、国境を超えた舞台芸術のプラットフォーム「TPAM」イベントレポートを去年に引き続きお届けします!
	2014年3月13日	創造都市横浜	イベントレポート
	2014年4月21日	Body Arts Laboratory Critique	『新長田のダンス事情』レビュー
	2014年5月14日	マダカル	マダカルさんが行く!
ブログ	掲載日/号	掲載媒体名	タイトル/内容など
	2014年1月29日	式代目・青い日記帳	世界で今注目の舞台芸術パフォーマンスが大集結!!
	2014年1月29日	式代目・青い日記帳	世界で今注目の舞台芸術パフォーマンスが大集結!!
	2014年2月10日	Bricola Q Blog	TPAMのミーティングがはじまる
	2014年2月10日	蓮沼執太ブログ	作曲行為の行こうと本質-メモ-
	2014年2月11日	Bricola Q Blog	蓮沼執太フィルなど
	2014年2月12日	Bricola Q Blog	『幼女X』
	2014年2月13日	Bricola Q Blog	「Rと無重力のうねり」 ON-PAM
	2014年2月14日	Bricola Q Blog	革命的な一日 AIR
	2014年2月15日	Bricola Q Blog	TPAMエクスチェンジ、フェスティバル・ボムのトーク
	2014年2月16日	Bricola Q Blog	「RE/PLAY」2回目、TPAMクロージング
	2014年2月16日	BankART1929 BLOG	2.14-2.16 TPAM in Yokohama 2014開催
	2014年2月18日	Bricola Q Blog	「批評家」を名乗ることについて
	2014年2月18日	蓮沼執太ブログ	集まってやることへの、もう一歩先。
テレビ	掲載日/号	掲載媒体名	タイトル/内容など
	2014年2月8日	神奈川テレビ ありがと	ゲスト:山崎奈玲子 開催告知



ご意見、ご質問など、どうぞお気軽にお問い合わせ下さい。

●お問い合わせ

国際舞台芸術ミーティング in 横浜 事務局

(PARC - 国際舞台芸術交流センター)

〒150-0022 東京都渋谷区恵比寿南 3-1-2 サウスビル 3F

TEL 03-5724-4660 | FAX 03-5724-4661

www.tpam.or.jp